



「かかし」はどうして「^{かかし}案山子^か」と書くの

「^{かかし}案山子^{あじひと}」は当て字の一つ

ふた いじょう たんご かんじ く あ いちご じゅくご
二つ以上の単語、または漢字が組み合わさって一語になっているものを、「熟語」といいます。

たとえば、「^{よあ}夜明け」「^か買い物」「^{どくしょ}読書」「^{ばいてん}売店」「^{とざん}登山」などです。

熟語には、^{かんじ}漢字のものと^{いみ}意味に関係なく使われるものがあります。これを、「^{あじ}当て字」といいます。「^{かかし}案山子」は、^よかかしと^{あじひと}読み、この^{あじひと}当て字の一つです。

^{あじ}当て字は、ほかに^{いなか}も「^{あじ}田舎（いなか）」、「^{たばこ}煙草（たばこ）」、「^{めでた}目出度い（めでたい）」などがあります。

「かかし」は、^{いみ}においをかがせるものという意味

「^{たけ}かかし」は、^{つく}竹やわらなどで作った、^{にんぎょう}人形のことで、^た田んぼなどで見られます。「^{かかし}かかし」の^{ことば}言葉のものと^{いみ}意味は、^{いみ}においをかがせるもの^{ことば}の意味で、「^{かかし}かかし」からできた^{ことば}言葉です。

^{にく}けものの肉をやいて、^{たけ}竹などにつけて、^{たはた}それを田畑に立てて、^たその^{とり}においで、^{とり}鳥や^おけものを^お追いはらったことによります。（監修・保岡 孝之）

